

熱延コイルセンター大手の村山鋼材(本社・千葉県浦安市入船、社長・村山和雄氏)では浦安工場(浦安第2鉄鋼団地内)に入荷してくる原コイルのチェックを、事務所で行えるようにした。

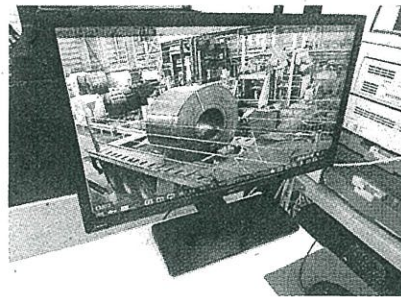
原コイルヤードの入荷口と荷卸し場に高精度カメラを1台ずつ設置し、コイルの状態を事務所のモニタ画面で全方向から確認する。

入荷してくるコイルは、実は一部「巻き」が甘かったり若干緩んでいたりと、はたまた部分的にサビが生じていたりキズがあったり...といったケースがある。

その際、これまでは現場から事務所に連絡が入りスタッ

## コイルの状態確認作業 高精度カメラで時間短縮

**村山鋼材**



事務所のモニタで現場のコイル状態をチェック

フが入荷口に足を運んでその状態の具合を目視で確認し、必要対応策を講じていた。事務所から現場は、駆け足で行けば5分と掛からない。しかし、現場からの連絡の都度ヘルメットを被るなど準備し、担当レベルで判断しかね

る場合は上席を呼んで...ということが幾度も重なること結構な時間ロスとなる。

これが、事務所に居ながらリアルタイムで確認・判断し、迅速な対策が可能になった。高精度カメラによる鮮明な画像を、多方向から、しかもズームアップして確認できるメリットは大きい。時短はもちろん、労務負荷軽減にもつながる。

### 「働き方改革」の一助に

データは2カ月間保存できるからトレーサビリティに活用するのはもちろん、同社では事務作業効率化・時短を「働き方改革」への一助ともしている。